

2003 年 3 月 19 日

## 米国の対イラク「宣戦布告」と今後の国際石油情勢

(財)日本エネルギー経済研究所  
エネルギー動向分析室長 小山 堅

### はじめに

2003 年 3 月 17 日午後 8 時(米国東部標準時間)、米国ブッシュ大統領は全米に向けた演説を行い、イラクのサダム・フセイン大統領等に対して 48 時間以内での亡命・国外退去を要求、従わない場合には武力行使をする旨、最終通告した。現時点では、フセイン大統領が自ら亡命する可能性は極めて低いため、この事実上の宣戦布告によって対イラク戦争は不可避となった。この状況下、以下では、最新の国際石油需給動向を踏まえ、開戦後の国際石油情勢及び原油価格動向を展望する。

### 1. 最近の原油価格動向とその背景

2002 年 12 月以降、国際市場における原油価格は一段の高騰を見せた。指標原油米国産 WTI の先物価格は 12 月初の 27 ドル台から 2003 年 3 月初の 37 ドル台まで一気に 10 ドル上昇した(図 1)<sup>1</sup>。

この背景には、米国湾岸地域への主力供給者であるベネズエラの石油生産が 12 月以来のゼネストの影響でスト前の生産水準(約 260 万 B/D)から一時は 100 万 B/D を大きく割り込むところまで減少したこと、北半球全体(特に米国北東部)における例年以上の寒波、等の影響で米国の石油在庫水準が危険水域にまで低下し<sup>2</sup>(図 2)、供給逼迫感が強まったことがある。

加えて、ベネズエラからの供給不足を補うため、12 月以来サウジアラビア等の主力 OPEC 産油国が大幅増産を実施したが、結果としてその増産のために、現時点での OPEC 増産余力が縮小、イラク攻撃に伴う供給損失分(イラクからの石油輸出停止等)をカバーしきれないのではないかという観測が市場関係者に広まったことが影響した。その意味で、直近までの価格高騰はいわゆる「戦争プレミアム」による上乗せ分に加えて、実際に国際石油需給が逼迫したことによってもたらされたという側面がある。今後の需給バランス、原油価格動向を考える上でも上記のポイントは重要である。

### 2. 今後の原油価格展望

対イラク戦争開始がほぼ不可避となった現在、今後の原油価格の先行きは対イラク戦争

1 なお、「宣戦布告」前後から原油価格は、戦争の早期終結を前提としたポジション整理・利益確定売り等に押されて下落し、3 月 18 日の終値(4 月物)は 31.6 ドルとなっている。

2 米国の民間原油在庫は 2003 年 2 月初以来、最低操業水準ともされる 2 億 7000 万バレル近辺で推移している。

**の展開状況に再び大きく依存することになる。**対イラク戦争の展開に関しては、当研究所が 2002 年 10 月に発表した 3 つのシナリオ（イラク安定化シナリオ、イラク泥沼化シナリオ、中東紛争拡大シナリオ）<sup>3</sup>が現在でも参照基準として有効であると考えられるため、以下の分析ではその 3 シナリオをベースに原油価格を展望する。

なお、今後の**展望にあたっての前提条件として留意すべき点**は以下の通りである。

米国の石油在庫は現在でも極めて低い水準にとどまっている。

ベネズエラの原油生産は、スト直後の状況から改善、政府側発表では約 200 万 B/D まで既に回復している。

**OPEC の余剰生産能力は、ベネズエラからの供給不足を補うための増産によって縮小、2003 年 2 月の生産実績をベースに計算すると、イラク、ベネズエラを除く 9 カ国の生産余力は約 170 万 B/D 程度となる（表 1）。**なお、3 月以降も特にサウジアラビアがさらに増産していると考えられるため、**直近時点での生産余力はさらに小さく、場合によっては 100 万 B/D 前後**になっている可能性がある<sup>4</sup>。ただし、サウジアラビアの原油生産能力は 90 日以内に 100 万 B/D 追加可能であると考えられており、現在既に能力拡張に向けた準備が進められつつある可能性がある。

非 OPEC の石油生産は石油高価格のもと着実に増加しつつあり、**需要面では冬場が終了することで不需要期に入りつつある。**IEA の見通しでは、世界の石油需要は 2003 年第 1 四半期（1Q）の 7,820 万 B/D から 2Q には 7,660 万 B/D へと 160 万 B/D 減少する。**イラク攻撃が開始されるとイラクからの石油輸出（約 170 万 B/D）は停止する。**またクウェートの北部油田も安全確保のため一部生産が停止し、国際市場への供給量が減少する可能性がある。こうした**国際市場への供給減少分と OPEC の現時点での余剰生産能力を比較すると前者のほうが大きく、計算上は供給不足となる。**

そのため、**IEA 加盟国による石油備蓄放出等を通じた市場安定化策の適切かつタイムリーな実施が極めて重要**である。これは以下のどのシナリオにおいても共通したポイントとなる。

以上を前提として、今後の原油価格を 3 つのシナリオに即して概説する。

#### **イラク安定化シナリオ（確率：60～70%）<sup>5</sup>**

イラク攻撃が開始されるが、**短期間かつ圧倒的な米軍勝利**となり、極めて早期でのフセイン体制排除に成功する。

戦争開始直後には一時的な混乱はあるものの、**米国主導で新しいイラク暫定統治体制が確立し、安定化**していくとの見方が広まる。

石油市場においては、混乱は最小化され、**戦争開始直後にごく短期的に原油価格が**

<sup>3</sup> 3 つのシナリオの詳細については、日本エネルギー経済研究所「米国によるイラク攻撃と中東有事シナリオ」（日本エネルギー経済研究所ホームページ（URL:<http://eneken.ieej.or.jp>）2002 年 10 月掲載）を参照されたい。

<sup>4</sup> IEA は最新の Oil Market Report において、3 月前半の OPEC 生産余力は 91 万 B/D にまで低下していると推計している。

<sup>5</sup> シナリオプランニング手法においては、各シナリオのロジックそのものが首尾一貫し整合性を持って完結していれば、本来は各シナリオの「確率」は一切問われない。しかし、本レポートでは、最近の国際情勢を鑑み、敢えて参考として確率を付記することとした。

上昇、再び 40 ドル前後を記録するが、戦争短期終結（の見通し）とともに、急速に価格は低下していく。

戦争プレミアムが剥落することに加え、ファンダメンタルスの面からも不需要期における潜在的供給過剰の懸念から原油価格は下落し、WTI 原油価格は 2003 年第 2 四半期（2Q）平均は 25～30 ドル程度、年後半は平均で 23 ドル前後まで低下していく<sup>6</sup>。

#### イラク泥沼化シナリオ（確率：30～40%程度）

イラク軍の抵抗等もあって軍事作戦の展開は安定化シナリオほど短期・圧倒的な戦争終結という形をとらない。その間、対峙する双方に死傷者・被害が拡大する。軍事力における大きな較差から最終的には米国側の勝利となるが、フセイン政権の早期排除とその後の安定的な統治体制確立に関して、不安感・不確実感が広がる。安定的な国内体制樹立が容易に進まない中、不安定化の影響が周辺国にも波及していく。

原油価格は、戦争開始後から急上昇し、終結までに時間がかかる（との見通し）と共に上値を狙う展開となる。WTI 原油価格は 40 ドルを突破、40 ドル台半ばを中心として、事態の推移と共に乱高下する。終結（の見通し確保）まで、高値推移は持続し、その後も体制安定化に関する不確実性が伴うため、原油価格も安定化は困難。

戦争終結と共に需給ファンダメンタルスが主要ドライバーとなり、その下で 2003 年後半にかけて緩やかに原油価格は低下していくが、WTI 原油価格の平均値は 2Q で 30～35 ドル前後にとどまり、ようやく 4Q で 25 ドル前後まで低下していく推移となる。なお、特に前半期間は激しい乱高下を伴う価格推移となる。

なお、戦争開始直後にフセイン大統領がイラクの油田破壊を試みる可能性がある。その結果、損傷が発生し、しかも影響がある程度長期化するとの見通しが広まる場合、原油価格の変動水準がさらに 3～5 ドル前後上昇する可能性がある。

#### 中東紛争拡大シナリオ（確率：極めて小）

戦争開始直後、イラクがイスラエルをミサイル攻撃、イスラエルの反撃によって戦火が一気に拡大する。死傷者・被害の拡大と共に反イスラエル・反米感情が中東で燃え上がり、穏健派の湾岸産油国の政情も不安定化する。この状況下で中東産油国の現政権が生き残り戦略として反米的な姿勢をとることを余儀なくされ、その象徴として石油を「政治的武器」として使用するオプションがとられる。

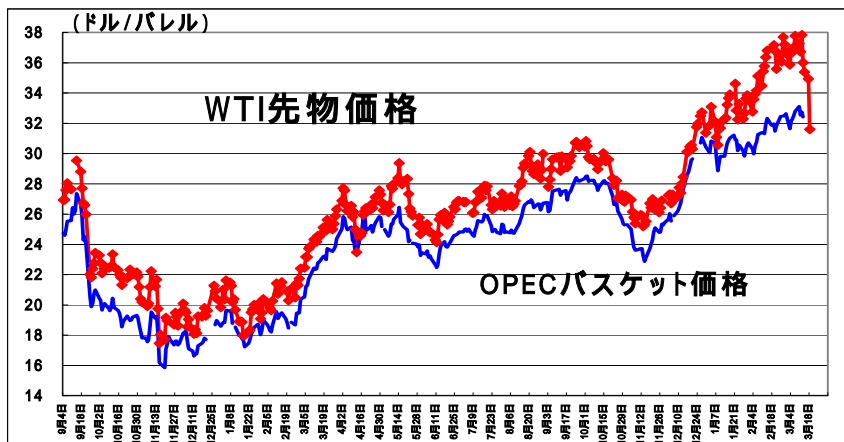
その結果、国際石油市場は大混乱に陥る。原油価格は大幅に高騰し、2Q 平均値ベースでも 40 ドル台を上回り、瞬間風速としては 50 ドル突破もありうる。石油市場の混乱収束に時間がかかり、2003 年後半でも 30 ドル中盤前後の価格推移となる。

以上

お問い合わせ：ieej-info@tky.ieej.or.jp

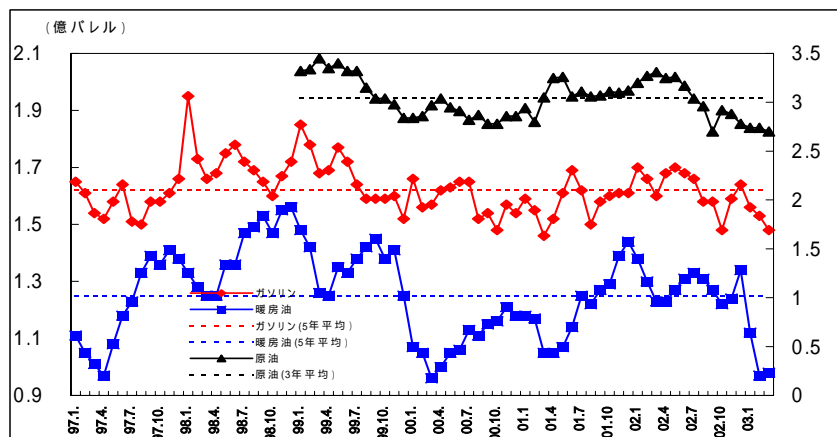
<sup>6</sup> なお、2003 年 1 月から 3 月 18 日までの WTI 原油価格の平均は 34.5 ドルであった。

図1 WTI原油先物価格およびOPECバスケット価格の推移



(出所)NYMEX資料等よりエネ研作成

図2 米国の民間石油在庫の推移



(出所)米国エネルギー情報局資料より作成

表1 OPECの余剰生産能力(生産余力)

	原油生産能力 (千B/D) (A)	03年2月生産量 (千B/D) (B)	余剰生産能力 (千B/D) (A) - (B)	生産枠(03/2月) (千B/D)
アルジェリア	1,100	1,050	50	780
インドネシア	1,180	1,050	130	1,270
イラン	3,900	3,690	210	3,600
イラク	2,800	2,490	310	
クウェート	2,150	1,980	170	1,970
リビア	1,450	1,390	60	1,310
ナイジェリア	2,440	2,190	250	2,020
カタール	750	740	10	640
サウジアラビア	9,500	8,850	650	7,960
UAE	2,500	2,320	180	2,140
ベネズエラ	2,750	1,430	1,320	2,820
合計	30,520	27,180	3,340	24,500
イラク除く(OPEC10)	27,720	24,690	3,030	
イラクとベネズエラ除く(OPEC9)	24,970	23,260	1,710	

(出所)IEA「Oil Market Report 2003年3月号」より作成